

## 喉頭蓋嚢胞を伴う慢性咳嗽で耳鼻咽喉科を受診した症例より

阪本 浩一，井口 広義

大阪市立大学大学院耳鼻咽喉病態学

耳鼻咽喉科を受診する慢性咳嗽患者は，他院，内科などでの検査，投薬をすでに受けていることが多い。耳鼻咽喉科領域の咳嗽の原因として，喉頭アレルギー，後鼻漏症候群が重要である。しかし，喉頭に良性の腫瘤性病変を合併する場合には，症状の原因となる場合もあり注意が必要である。

今回，喉頭蓋嚢胞により慢性咳嗽を来した1例を経験したので，過去の喉頭蓋嚢胞例の経験を加えて経過と診断を中心に報告する。

症例は，39歳女性。咳嗽，呼吸困難感，咽頭痛にて近医受診，喉頭蓋嚢胞感染を指摘され当科紹介となった。患者は，以前より体調の悪化に伴い咳嗽の増悪を繰り返していた。既往歴として，アレルギー性鼻炎，パニック障害を認めた。

現症，鼻内は粘膜腫脹認め，粘稠な鼻汁，後鼻漏を認めた。咽頭は，舌根部の腫脹，喉頭蓋舌面の喉頭蓋嚢胞を認めた。喉頭蓋喉頭面に腫脹なく，喉頭声門に特に異常は認めなかった。副鼻腔，頸部CTでは，副鼻腔炎認めず，喉頭蓋喉頭面の腫脹を認めた。血液検査にて，軽度の炎症所見を認めるのみであった。

喉頭蓋嚢胞の腫脹に対して，抗生剤の点滴治療を行った。結果，炎症症状の改善に伴い疼痛，咳嗽は改善するも咽頭違和感改善せず。

RASTにてスギ，ヒノキ，カモガヤ，HD，ダニが陽性であった。

今回の症例では，鼻腔，喉頭のアレルギー症状に加えて，喉頭蓋嚢胞が咳嗽，咽喉頭異常感増悪の原因の一つになっていたと考えられた。本例では，今回紹介を受けるまで症状の経過中に喉頭の内視鏡診断を受ける機会が無く，喉頭蓋の嚢胞は発見されていなかった。咽喉頭の良性の腫瘤性病変は長期にわたって存在し症状の遷延化に関与している場合もあり喉頭の内視鏡診断の重要性が改めて感じられた。